

大隅地域において麦類の適期播種が行われ難い理由について

川俣 稔\*・築島安宏\*・佐藤虎雄\*

KAWAMATA, M., TSUKIJIMA, Y. & SATO, T. On the Causes of Failure of Timely Sowing of Wheat and Barley in Ōsumi Area

作物収量を強く規制する播種期の実態と適期播種期とのズレの発生機構を麦類について、大隅北東部の野方村佐土原部落で調査した。

1. 調査地の概況 全36戸が純畑作農家である。麦

\* 鹿兒島縣農業試験場 鹿屋分場

類の対畑作面積割合は12.7%で大豆、粟よりも小さい。筆者等は畑面積3町以上を穀作A, 1.2町以上を同B, それ以下を同C型と規程した。

2. 麦類播種期の実態

稈麦は小麦より2日ほど早く播かれたが、11月16

第1表 経営型態別麦類播種期の実態

区 分	項 目 型 態	本 年 (昭28)			前 年 比			平 年 比		
		始 め	終 り	日 数	始 め	終 り	日 数	始 め	終 り	日 数
		稈 麦	A	11.23	11.24	2	+ 2	0	- 2	+ 2
	B	11.23	11.24	2	+ 3	+ 3	0	+ 5	+ 2	- 2
	C	—	—	—	—	—	—	—	—	—
小 麦	A	11.22	11.25	4	+ 1	+ 1	- 1	+ 2	+ 1	- 3
	B	11.25	11.25	1	+ 1	+ 1	0	+ 1	- 1	- 2
	C	11.28	11.30	3	- 8	- 6	+ 2	+ 8	0	- 8

註) 1. 穀作 A, B : 8 戸, 同 C... 2 戸平均

第2表 農家別麦類栽培面積とその播種期及び夏作物, 菜種作業との関係

農 家	項 目	畑面積	小 麦	稈 麦	計 (A)	作 付 割 合 (%)	菜 種 (B) / (A)	麦の前作物	作 業 順 序	基 準 播 種 日
A	反	38.0	2.0	2.5	4.5	11.8	8.0	陸 稻	1	月 15
B	反	34.0	3.5	—	3.5	10.3	7.2	"	2	"
C	反	29.5	1.5	4.0	5.5	18.6	7.0	陸稻, 甘藷	1	"
D	反	19.0	1.5	1.6	3.1	16.3	6.0	"	1	"

農 家	項 目	稈 麦 下 播 種			小 麦 下 種			残 存 割 合 (%)			勞 力 人
		始 め	終 り	日 数	始 め	終 り	日 数	甘 藷	粟	蕎 麦	
A	月 日	11. 18	11. 23	6	11. 24	11. 27	4	44	67	100	5
B	—	—	—	—	11. 23	11. 24	2	36	84	83	2
C	月 日	11. 19	11. 20	2	11. 21	11. 21	1	55	100	100	4
D	月 日	11. 25	11. 25	1	11. 25	11. 25	1	57	100	100	2

註) (1) 作付割合...畑面積に対する麦作面積%. (2) 作業順序 1...麦播きが菜種定植より先行 2...菜種定植が麦播きに先行して始められる. (3) 残存割合...対作付面積. (4) 労力...成年男子換算.

日の降水が甘藷掘取りを阻害し、播き始めは前年、平年より1~5日おくれ、とくにB, C型農家が著しかった。播種日数は麦作減反にともない年々短縮されている。なお、11月中旬と12月中旬播との反収差は稈、小麦とも6~7斗と謂われる。

3. 適期播種を阻む要因 鹿屋分場で稈、小麦の最高収量をあげた11月15日(21~23成績)を基準播種日とし各型態で早く播いたA, B, C, D農家のズレの発生要因を見ると、(i) 夏作物からの規制 前作は陸稲が多いが菜種作重視のC, D農家では陸稲跡に菜種面積を確保するため麦作は甘藷跡地へ喰いこむ。しかし麦播種期を強く規制する要素はむしろ、甘藷掘取りの進捗程度である。播種当時A, B農家では約6割が掘られていたが、C, D農家では尻上り価格の思惑から

1/2も掘られていない。(ii) 菜種定植との競合 B型農家では苗の徒長と定植面積過大により菜種定植が先に始めらる。B農家がこれに属する。(iii) 作業過程からみた麦播種期 小麦は稈麦に引続いて播かれる。基準播種日からのズレはA, C農家が小、D農家が最大であった。A農家は前作収穫直後に耕起し11月上旬荒碎土をかけ、労働分配が良好であったが、甘藷掘取りが稈麦播種期に入り込み、10日の所要日数を費した。C農家の場合は11月16日に甘藷掘取りを中止し耕起~下種の一貫作業を行い甘藷蔓の鋤込、石灰散布を行うが反当作業能率も高い。之に反し、D農家は荷馬車曳の兼業からの制約のため11日のズレを生じ作業は粗略であった。

4. 麦類を適期播種するためには 以上の調査結果

から、甘藷適期挿苗による掘取り期の繰上げと、菜種播種を10月初旬にもち込み、定植を12月上旬の適期に繰りさげる必要がある。同時に耕起、荒砕土等を前作

収穫直後に済ませおくなど、合理的な作業分配が要望される。